



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

シリア：日本人と見られる男性がイスラーム過激派に拘束

現地時間8月17日（日本時間18日）、シリアのアレッポで、日本人とみられる男性がイスラーム過激派「イスラーム国」の可能性もある組織によって拘束された映像が、インターネット動画サイト「YouTube」に出回った。拘束された男性は戦闘員らの尋問に「ハルナ・ユカワ」と答えたように聞こえる。戦闘員らはこの男性が銃を所持していることを不審に思い、自由シリア軍（反体制派の一つ）の兵士なのか、米国のスパイなのか、と尋問した。これに対し、男性は、自分はジャーナリストであり医師である、兵士ではない、死んだ自由シリア軍兵士から銃を入手した、と答えた。また、戦闘員に後ろ手を縛られた同じ人物とみられる男性がイスラーム国に忠誠を誓わされている映像もあった。

その後、インターネット上の一部で（ツイッター、フェイスブック）、この男性が処刑されたとの情報が流れたが、現在までのところ、処刑された画像や映像は発表されていない。

また19日には、日本の一部メディアがイスラーム国が犯行声明を発表したと報じたが、イスラーム国から正式な犯行声明は発出されていない。

評価

今般の事件は未だ不明点が多いが、以下2点が指摘されよう。第一に、インターネット上に流布した拘束当時の映像は、現地戦闘員が自らの戦果をSNSに流しただけの可能性が高く、イスラーム国が組織として遂行した軍事作戦を意味するかどうかは別問題であるということだ。何らかの戦略に基づいて遂行した作戦であるならば、イスラーム国が公式に犯行声明を発表するのが通常である。だが後述するように、その発表はない。

第二に、一部メディアが、イスラーム国が犯行声明を発表したと報じている。確かにイスラーム過激派の情報交換・犯行声明掲示板サイトで、今般の事件についての投稿が確認された。しかし、その投稿は、過激派シンパが今般の事件を紹介すると同時に、同投稿者が、その男性は自由シリア軍や米国のスパイであると主張しただけの単なる「書き込み」である。

イスラーム国に限らず過激派が発出する犯行声明は、通常、どの組織が・何の目的で・何を攻撃したかを明確に記述する。こうした犯行声明を発出することで、過激派は敵方に対して自らの行為にインパクトを持たせることができるからだ。20日現在（日本時間）、今般事件についてこうした形式の犯行声明はいかなる過激派組織からも出されていない。したがって、本件は、いまだに、誰が何の目的で何を行なったのか（拘束されたままなのか、処刑されたのか）、戦略的な組織的軍事作戦であったのか、または偶発的事件だったのか、不明である。

いずれにせよ、今後、イスラーム国が本件についてどのように反応するか注目していく必要がある。

（イスラーム過激派モニター班）

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。
ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799